

## 第2章 箕面市における自殺の状況

### 2-1 箕面市における自殺の現状

#### 2-1-1 自殺者の推移

本市の年間自殺者は、平成26年から令和2年までの平均が17人となります。令和2年はコロナ禍による生活不安等さまざまな問題や有名人の自殺報道による誘発効果（ウエルテル効果）の影響などにより、国統計と同様に増加が見られました。

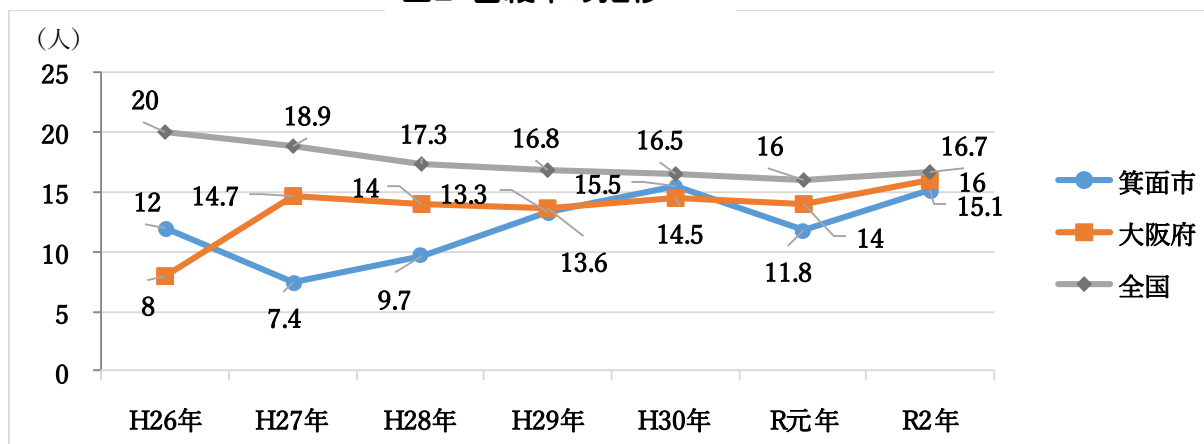
表2:過去7年間の自殺者数

	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年
男	12	7	8	13	10	11	15
女	8	3	5	5	11	5	6
総数	20	10	13	18	21	16	21

出典：「大阪府内各市町村における自殺の状況」（大阪府こころの健康総合センター）

本市の人口10万人あたりの自殺者数を表す自殺死亡率（以下「自殺率」という。）は、平成27年から平成30年にかけて毎年増加し、令和元年に減少に転じたものの、令和2年に再び増加しました。

図2:自殺率の推移



出典：警察庁自殺統計原票データ、総務省「国勢調査」及び「人口推計」より厚生労働省作成

## 2-2 箕面市の自殺の特徴

本市では単年度の自殺者数では母数が少ないため、概ね5年間の累積人数等から特徴を分析することにしました。厚生労働大臣指定法人いのちを支える自殺対策推進センター（以下「自殺対策推進センター」という。）においても5年間の累計分析等を実施しており、そのデータを活用しました。

平成27年から令和元年までの5年間の累計死亡者数78人（男性49人、女性29人）について、自殺対策推進センターがプロファイルした結果は表3のとおりです。

**表3：自殺者の主な自殺の特徴（平成27～令和元年合計）**

	特性上位 3区分	自殺者数 (5年計)	割合	背景にある主な自殺の危機経路
1	男性60歳以上 無職同居	9人	11.5%	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）→身体疾患→自殺
2	女性60歳以上 無職同居	8人	10.3%	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
3	男性40-59歳有 職同居	7人	9.0%	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺

出典：箕面市地域実態プロファイル2020 厚生労働省「地域における自殺の基礎資料（自殺日・住居地）」より集計

### 2-2-1 年齢階級別

年齢階級別にみると、壮年期と60歳以上のかたがそれぞれ総数の約4割を占めています。

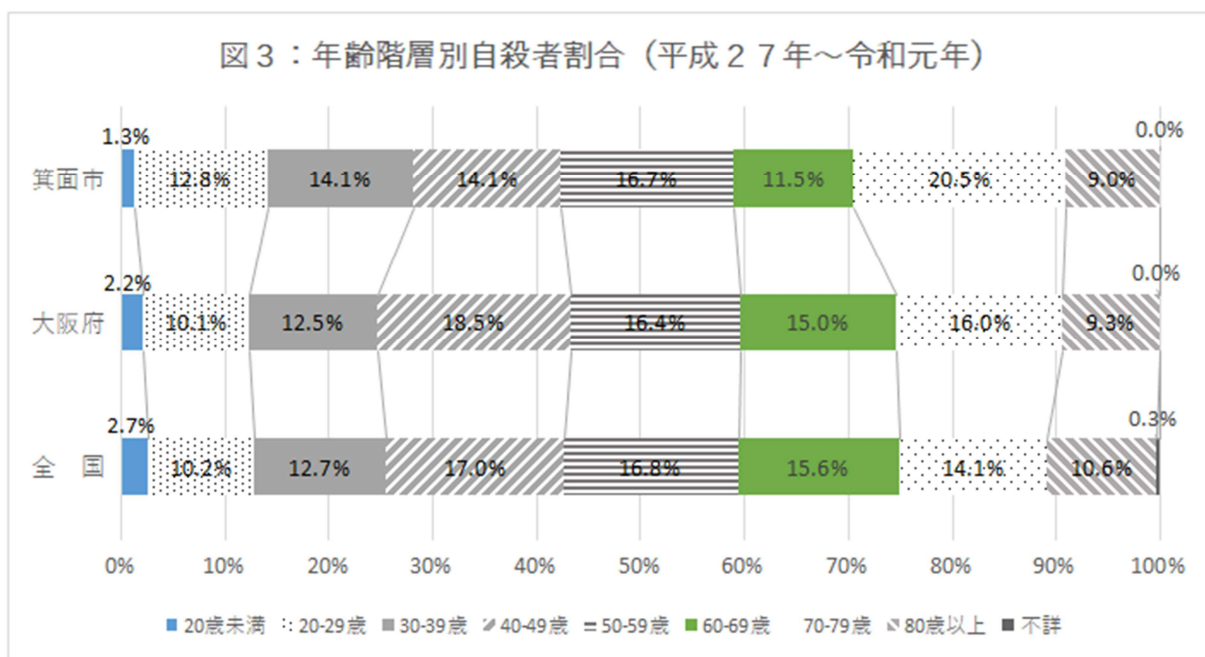
また、本市における死亡統計では対象数が少なく年度毎の数値に大きく変動が生じることから、令和元年度の大阪府の年齢階級別死亡順位を参考に年齢階級毎の死因を見てみました。表5のとおり、10歳から54歳までの幅広い年齢層で自殺が死因の3位以内に入っています。

**表4：本市年齢階級別自殺者数(平成27～令和元年合計)**

20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	合計
1人	10人	11人	11人	13人	9人	16人	7人	78人
1.3%	12.8%	14.1%	14.1%	16.7%	11.5%	20.5%	9.0%	100.0%

出典：箕面市地域実態プロフィール 2020

**図3：年齢階級別自殺者割合比較（平成27年～令和元年）**



出典：箕面市地域実態プロフィール 2020

表5:年齢階級別死因順位(令和元年度 大阪府統計)

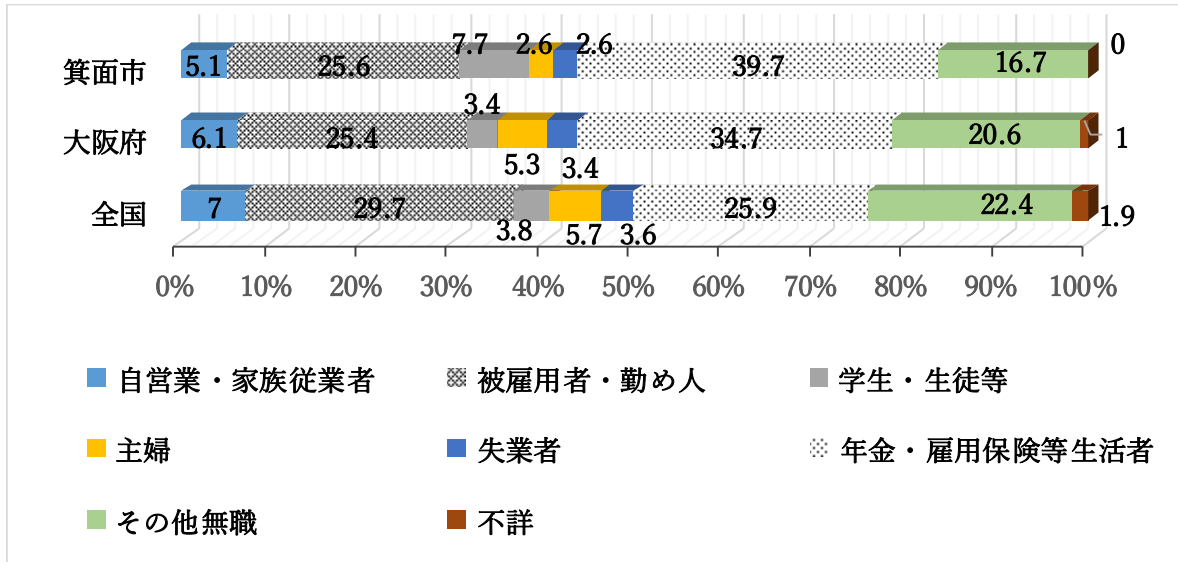
年齢	1位	2位	3位
0	先天奇形、変形及び染色体異常	周産期に発症した病態	不慮の事故
1～4	先天奇形、変形及び染色体異常	不慮の事故	腸管感染症
5～9	不慮の事故	先天奇形、変形及び染色体異常	悪性新生物
10～14	自殺	不慮の事故	悪性新生物
15～19	自殺	悪性新生物	不慮の事故
20～24	自殺	不慮の事故	心疾患
25～29	自殺	悪性新生物	不慮の事故
30～34	自殺	悪性新生物	心疾患
35～39	自殺	悪性新生物	心疾患
40～44	悪性新生物	自殺	心疾患
45～49	悪性新生物	心疾患	自殺
50～54	悪性新生物	心疾患	自殺
55～59	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
60～64	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
65～69	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
70～74	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
75～79	悪性新生物	心疾患	肺炎
80～84	悪性新生物	心疾患	肺炎
85～89	悪性新生物	心疾患	肺炎
90以上	心疾患	老衰	悪性新生物

## 2-2-2 職業別

平成27年から令和元年の自殺者の割合を職業別にみると、本市は無職者（「学生・生徒等」と「主婦」、「失業者」、「年金・雇用保険等生活者」、「その他の無職者」の合計）の割合は69.3%となっており、大阪府と比べ若干低くなくなっていますが、全国の

63. 3%よりは高い状況となっています。特に年金・雇用保険等失業者の割合が高い傾向にあります。

図4：自殺者における職業割合



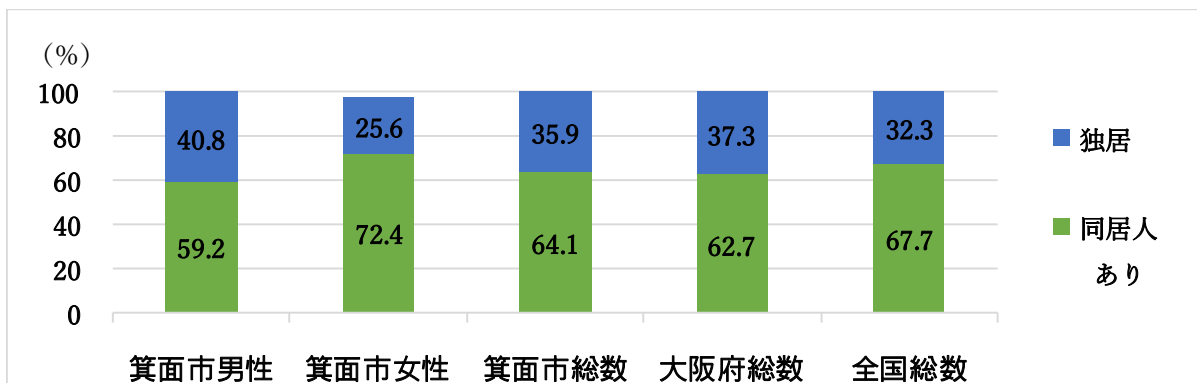
出典：箕面市地域実態プロフィール 2020

### 2-2-3 同居人の有無

平成27年から令和元年の自殺者の割合を同居人の有無別に見ると、男女の合計では、同居人ありの割合は、大阪府と同程度ですが、全国と比べると独居の割合が高くなっています。

なお、本市では女性に比べ男性のほうが、独居のかたの死亡割合が高くなっています。

図5：自殺者における同居人の有無



出典：箕面市地域実態プロフィール 2020

## 2-2-4 自殺の原因(危機経路)

本市の自殺の原因は、大阪府・全国と同じ傾向であり、男女とも「健康問題」が最も多く、次いで「経済・生活問題」、「家庭問題」と続きます。女性では、「家庭問題」や「男女問題」など人間関係に関わる問題が多くなっています。

**表6:自殺の原因**

	市全体	市男性	市女性	府全体	国全体
1位	健康問題	健康問題	健康問題	健康問題	健康問題
2位	経済・生活問題	経済・生活問題	家庭問題	経済・生活問題	経済・生活問題
3位	家庭問題	家庭問題	男女問題	家庭問題	家庭問題

出典：箕面市地域実態プロフィール 2020

## 2-2-5 自殺未遂歴の有無

本市の自殺者のうち、亡くなる前に自殺未遂の経験があるかは、20.3%であり、男女ともに全国や大阪府と同じ傾向となっています。男女比では、全国的に女性のほうが男性より高い割合で自殺未遂を経験していますが、本市では逆の傾向にあります。

**表7:自殺未遂歴のあった自殺者の割合(平成27年~令和元年)**

	全体	男性	女性
箕面市	20.3%	22.5%	17.2%
大阪府	21.3%	15.0%	33.4%
全国	19.1%	14.5%	29.6%

出典：箕面市地域実態プロフィール 2020

## 2-3 箕面市の自殺の特徴まとめ

本市の自殺の特徴をまとめると以下のとおりです。

### ○自殺者数及び自殺率

母数が少ないため年度毎の評価は難しいが、平成27年以降全国的に減少傾向であるが、本市では徐々に増加傾向にあります。

### ○年齢階級別

- ・壮年期および60歳以上がそれぞれ4割程度を占め、合計すると自殺者全体の8割を占めています。
- ・大阪府統計からは、10歳～54歳までの年齢で、自殺が死因順位の3位までに入っています。

### ○職業別

無職者の割合が67.3%と高く、無職者の中でも「年金・雇用保険等失業者」の割合が全体の4割を占めています。

### ○同居人の有無

全国及び大阪府と比較して、男性では独居の割合が高く、女性では同居の割合が高くなっています。

### ○自殺の原因

健康問題が大きな要因となっています。男女それぞれで見ると、男性は「経済・生活問題」が、女性では「家庭問題」が第2位を占めています。

### ○自殺未遂歴

本市では女性の自殺者で自殺未遂歴のあるかたは、大阪府や全国と比べ少ない傾向にあります。